

■ 本文

- ① 今は昔、竹取の翁といふものありけり。（『竹取物語』）
- ② 昔、男ありけり。（『伊勢物語』）
- ③ 白玉か何ぞと人の問ひしとき露と答へて消えなましものを（『伊勢物語』）
- ④ これも仁和寺の法師、童の法師にならむとする名残とて、各遊ぶことありけるに、（『徒然草』）
- ⑤ 聞きしにも過ぎて、尊くこそおはしけれ。（『徒然草』）
- ⑥ 世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし（『古今和歌集』）
- ⑦ 筒井筒井筒にかけしまろがたけ過ぎにけらしな妹見ざるまに（『伊勢物語』）
- ⑧ 春過ぎて夏来にけらし白妙の衣干すてふ天の香具山（『新古今和歌集』）
- ⑨ 思ひやればかぎりなく遠くも来にけるかな（『伊勢物語』）
- ⑩ うつくしきもの。瓜にかきたるちごの顔。（『枕草子』）
- ⑪ つれづれなるままに、日暮らし、硯に向かひて、心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。（『徒然草』）
- ⑫ 有明のつれなく見えし別れより暁ばかり憂きものはなし（『古今和歌集』）

■ 設問（全23問）

1. 例文①の「けり」の文法的意味を答えよ（直接体験した過去か、伝聞・詠嘆の過去か）。
2. 例文①の「けり」の活用形を、未然・連用・終止・連体・已然・命令から選べ。
3. 例文①の「あり」は、下に「けり」がつくために、ある活用形になっている。その活用形を答えよ。
4. 例文①「今は昔、竹取の翁といふものありけり。」を現代語訳せよ。
5. 例文②「昔、男ありけり。」を現代語訳せよ。
6. 例文③の「し」の文法的意味を答えよ（直接体験した過去か、伝聞・詠嘆の過去か）。
7. 例文③の「し」の活用形を、未然・連用・終止・連体・已然・命令から選べ。
8. 例文③の「問ひ」は、下に「し」がつくために、ある活用形になっている。その活用形を答えよ。
9. 例文④の「ける」の活用形を、未然・連用・終止・連体・已然・命令から選べ。また、なぜその活用形になるのか、直後の語に注目して説明せよ。
 - (1) 活用形
 - (2) その活用形になる理由
10. 例文⑤の「けれ」の活用形を、未然・連用・終止・連体・已然・命令から選べ。また、その活用形で結ばれている理由を、文中の係助詞に注目して説明せよ。
 - (1) 活用形
 - (2) その活用形で結ばれている理由
11. 例文⑥の「せ」の活用形を、未然・連用・終止・連体・已然・命令から選べ。

12. 例文⑥「世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし」の傍線部「なかりせば」を現代語訳せよ。
13. 例文⑦の「し」の文法的意味を答えよ（直接体験した過去か、伝聞・詠嘆の過去か）。
14. 例文⑧の「来にけらし」は、過去の助動詞「けり」に別の助動詞が付いた形である。「けらし」全体の意味として最も適切なものを、次から選べ。
- ア ～たそうだ（過去の伝聞）
イ ～たにちがいない／～たらしい（過去の推定）
ウ ～てしまった（完了）
15. 例文⑨の「ける」の文法的意味を答えよ。気づき・詠嘆の気持ちがこもっていることに注意して答えること。
16. 例文⑨の「ける」の活用形を、未然・連用・終止・連体・已然・命令から選べ。
17. 例文⑨「思ひやればかぎりなく遠くも来にけるかな」を現代語訳せよ。
18. 例文⑩の「ものぐるほしけれ」の「けれ」は、過去の助動詞「けり」の已然形ではない。では、何の一部か。次から選べ。
- ア 過去の助動詞「けり」の已然形
イ 形容詞「ものぐるほし」の已然形の活用語尾
ウ 完了の助動詞「り」の已然形
19. 過去の助動詞「き」が下につくとき、直前の語は原則として何形か、活用形の名で答えよ。
20. 過去の助動詞「けり」が下につくとき、直前の語は原則として何形か、活用形の名で答えよ。
21. 過去の助動詞「き」は、未然形と已然形だけ特別な形をとる。その二つの形を、ひらがなで答えよ。
- (1) 未然形
(2) 已然形
22. 次の各文の傍線部「し」のうち、過去の助動詞「き」の連体形であるものをすべて選べ。
- ア 例文③「人の問ひし」の「し」
イ 例文⑦「かけし」の「し」
ウ 例文⑧「夏来にけらし」の「し」
エ 例文⑩「うつくしき」と同じ形容詞「うつくし」の、終止形「うつくし」の「し」
23. 過去の助動詞「き」と「けり」は、それぞれどのような過去を表すか。両者の違いがわかるように、簡潔に説明せよ。